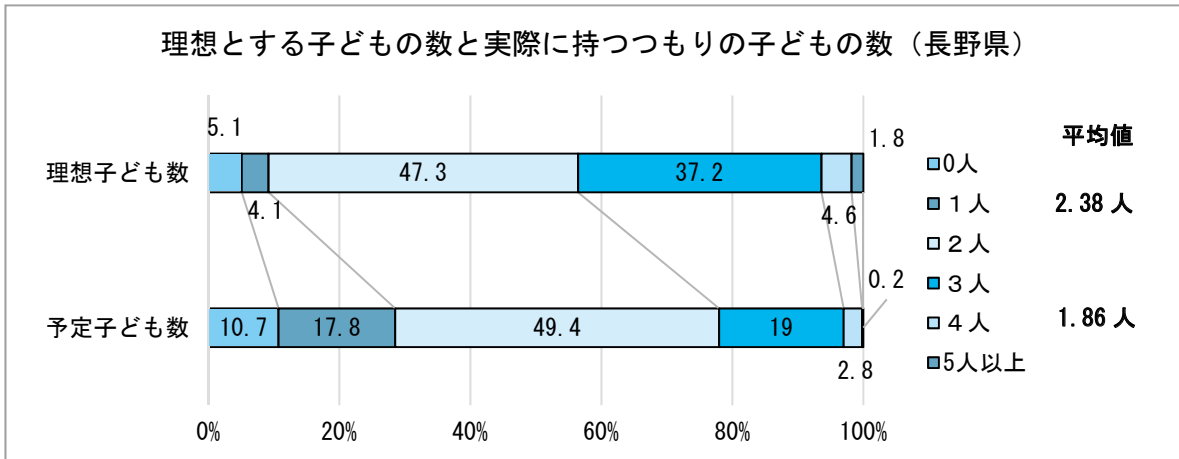


～子どもを産み、育てる上で、経済的な負担軽減と勤務先の理解が必要～

子どもの数の理想と現実のギャップは0.52人

- 既婚者の「理想とする子どもの数」は2.38人で、43.6%の方が3人以上を理想としています。一方、「実際に持つつもり（予定）の子どもの数」は1.86人で、理想と現実のギャップが0.52人生じています。

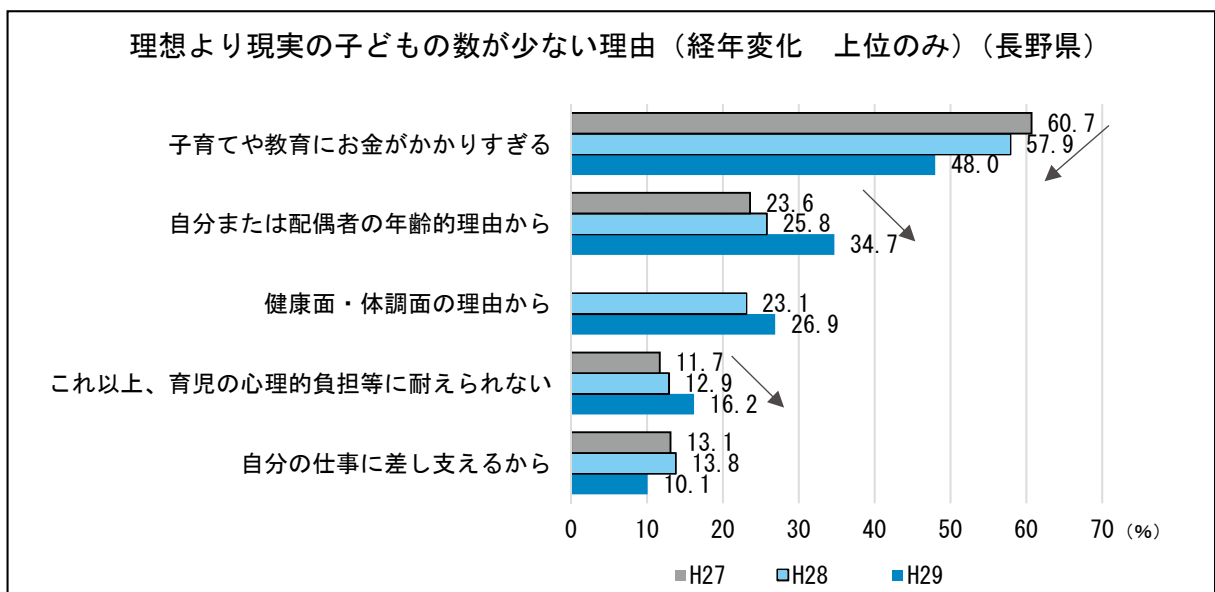


[H29 長野県民の結婚・出産・子育てに関する調査（長野県）]

子どもの数の理想と現実のギャップの最大の理由は「経済的な負担」

- 「理想とする子どもの数」が「実際に持つつもり（予定）の子どもの数」より少ない理由は、「子育てや教育にお金がかかり過ぎる」、「年齢的理由」、「健康面・体調面の理由」の順になっています。

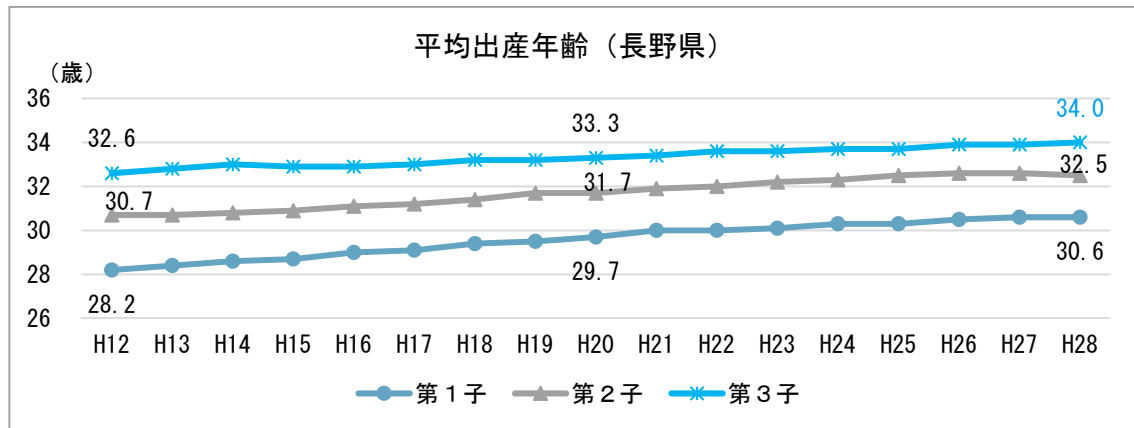
また、「子育てや教育にお金がかかり過ぎる」は減少傾向にあります、「年齢的理由」、「育児の心理的、肉体的負担に耐えられない」は増加傾向にあります。



[H29 長野県民の結婚・出産・子育てに関する調査（長野県）]

長野県でも晩産化が進行

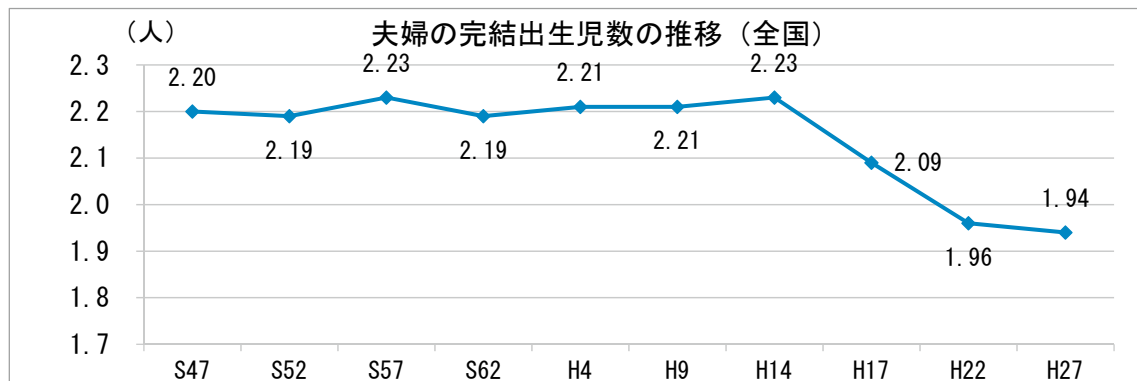
○ 長野県における平均出産年齢は、平成 28 年（2016 年）で、第 1 子が 30.6 歳、第 2 子が 32.5 歳、第 3 子が 34.0 歳となっており、晩産化が進んでいます。



〔人口動態統計（厚生労働省）〕

夫婦が持つ子ども数は 2.0 人を下回る

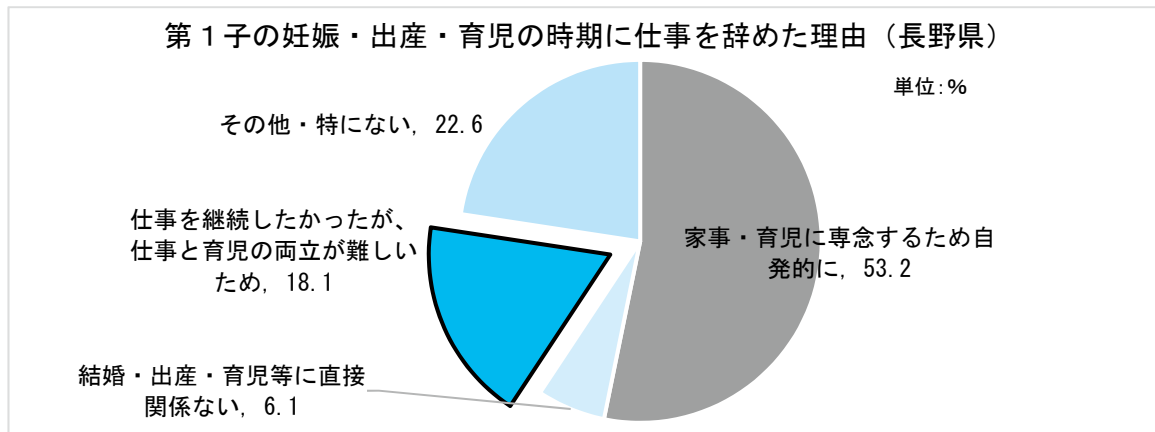
○ 最終的に夫婦が持つ子どもの数は、全国的に減少傾向にあり、2.0 人を下回っています。



〔2015 年出生動向基本調査（国立社会保障・人口問題研究所）〕

仕事と子育ての両立が困難で、退職する人が約 2 割

○ 第 1 子の妊娠・出産・育児に当たり、仕事を継続したかったが、仕事と育児の両立が困難なため退職した女性が約 2 割います。



〔H29 長野県民の結婚・出産・子育てに関する調査（長野県）〕

家事・育児分担で夫婦の認識に差

- 夫婦の家事・育児分担について、理想の分担割合は夫婦間の乖離はほとんどありませんが、現実の分担割合は夫婦間の認識差が見られます。また、現実の夫の家事・育児分担の割合の平均値は、3割を下回っています。

夫の家事分担の割合(平均値)(長野県)(%)

| | 夫本人 | 妻 | 認識差 |
|----|------|------|-------|
| 理想 | 35.9 | 35.5 | △ 0.4 |
| 現実 | 24.5 | 17.7 | △ 6.8 |

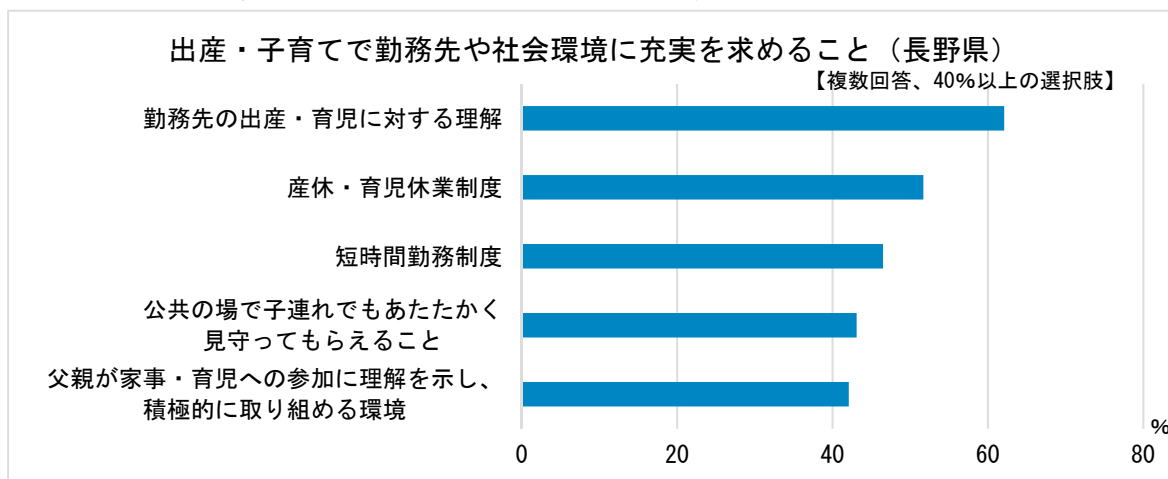
夫の育児分担の割合(平均値)(長野県)(%)

| | 夫本人 | 妻 | 認識差 |
|----|------|------|-------|
| 理想 | 40.6 | 40.3 | △ 0.3 |
| 現実 | 26.7 | 22.6 | △ 4.1 |

[H29 長野県民の結婚・出産・子育てに関する調査(長野県)]

出産・子育てには勤務先の理解が不可欠

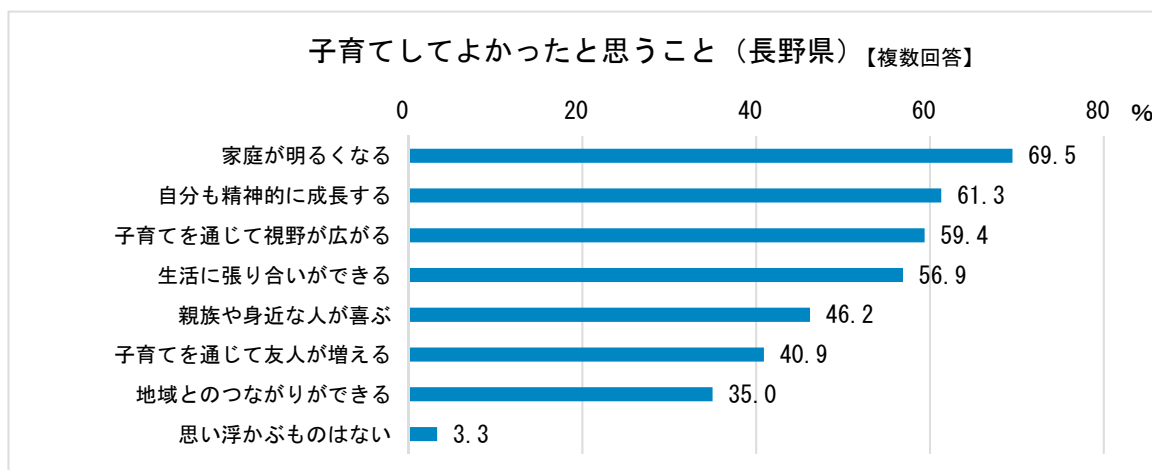
- 子どもを産み、育てる上で勤務先や社会に充実を求めるものとしては、「勤務先の出産・育児に対する理解」、「産休・育児休業制度」等が上位を占めています。



[H29 長野県民の結婚・出産・子育てに関する調査(長野県)]

子育てには楽しみや喜びがいっぱい!

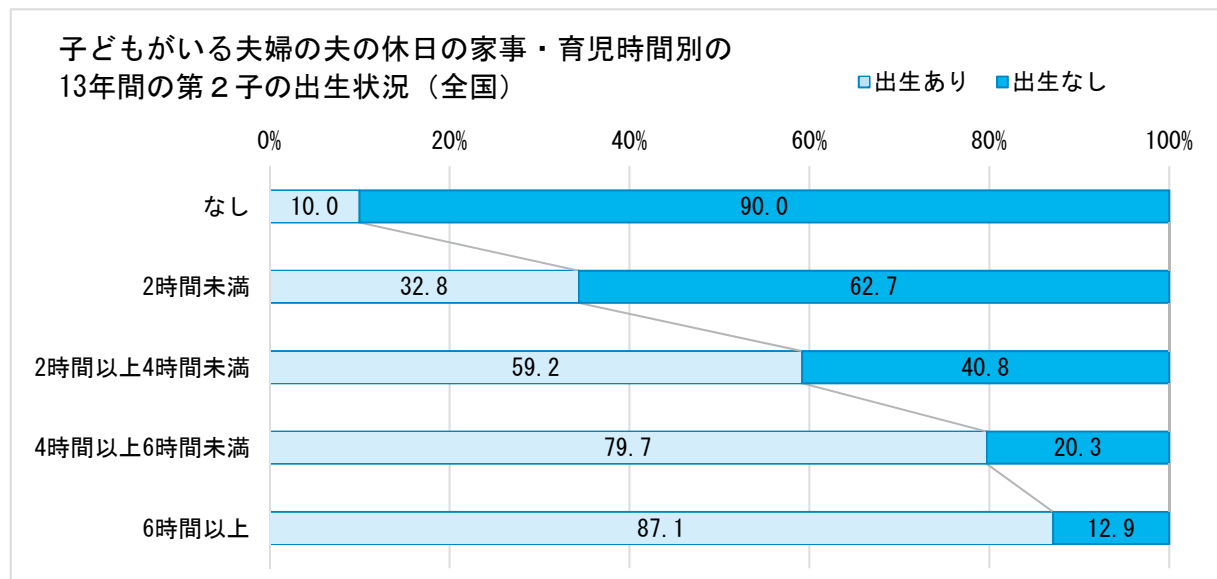
- 子どもを持っている方の96.7%は、「家庭が明るくなる」など、子育てのメリットを実感しています。



[H29 長野県民の結婚・出産・子育てに関する調査(長野県)]

夫の家事・育児時間が長いほど、第2子以降の出生が増加

○ 夫が、休日に家事・育児を行う時間が長いほど、第2子以降の子どもをもうける割合が高くなっています。



〔第14回 21世紀成年者縦断調査（2002年成年者）（厚生労働省）〕